心の時計の一部分

幸華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
心の時計の一部分

【Ｎコード】
Ｎ０４４７Ｓ

【作者名】
幸華

【あらすじ】
ごくごく普通の高校生、優華。その幼馴染で親友の笑莉。
この二人は、『時をかける少女』の大ファン。
今日はお菓子パーティーと称して、『時かけ』をみるという計画らしい。
優華は「タイムリープがしたい！」といつも言っていた。
が、それが現実になるなんて塵ほど思っていないのだった。

0．心の扉の鍵（前書き）

まずはじめにこれを読んでください♪

0．心の扉の鍵

誰にでも「思い出」というものはありますね。

しかし、ひとくくりに「思い出」といっても種類はさまざま。

楽しかった思い出、悲しかった思い出、うれしかった思い出、つらかった思い出・・・ｅｔｃ

その中には、忘れてしまった思い出もあるでしょう。

特に悲しかった思い出やつらかった思い出。

ただし、そんなものだけではありません。

それは

『忘れざるを得なかった思い出』

しかし人間、忘れていても心の奥にしまってあるんです。

忘れてしまっていて、思い出すこともないのは、ただ、その心の扉が開くことがないだけのこと。

今回は、その「忘れざるを得なかった思い出」をもっている、ある少女のお話。

彼女の心の扉の向こうの思い出を、見させてもらいましょう・・・

0．心の扉の鍵（後書き）

読んでいただきありがとうございます！！

初の連載ものなので、どうか見守ってください・・・

今後もよろしくお願いします★

３／３０　ＰＩＮＫＡ

1．時をかける少女（前書き）

時かけ好きな人は彼女たちに共感できるかと…☆

1．時をかける少女

『・・・未来で待ってる・・・』

『・・・うん・・・すぐ行く・・・走って行く・・・』

「うぅ・・・っぐすん・・・」

「ちぃあぁきぃぃぃ～～～！！」

現在、お菓子パーティーという名の映画鑑賞会の真っ最中。
なので、先に彼女たちを紹介しておこう。

まず、ナンヤカンヤうるさく叫んでるのが、高校2年生の優華（ゆうか）。
いつもハイテンションでポジティブ、笑顔の絶えない明るい子だ。
基本的にはボケ担当だが、親友にはツッコむことが多い。

その隣に居るのが先ほどいった優華の親友、同じく高校2年生の笑莉（えみり）。
優華と同じようにいつもハイテンション。そしてハンパないマイペース。
基本的にはツッコミ担当だが、優華と居るときはボケ担当・・・というか、マイペースのおかげでとんでもないボケをかましてるだけ

なので自覚はない。

そしてこの2人が共通して好きなもの・・・このアニメ映画「時をかける少女」。
夏のスペシャルなどで過去にＴＶで放送したものを録画して何度も観ているのだが、今回は放送の際にカットされたところを観よう！！となったらしい。

優華「やっぱ切ないね～～～！！」
笑莉「うんうん・・・あぁ～～～千昭～！！」
優華「千昭の未来って、どんぐらい未来なのかな～？」
笑莉「ねぇ～。真琴と千昭、会えるのかな～？」
優華「会えて欲しい！！そんでもって絵も！！あ～あたしもタイムリープできたらいいのに～」
笑莉「あはは～。でも無理だもんねぇ・・・。」
優華「え～！そんなこと言わないでよ～！信じてたら叶うかも・・・じゃん♪」
笑莉「まぁ・・・そうかもね。もしかしたら未来、ホントにできちゃってたり？」
優華「うわぁ！！そしたらすごいじゃん！！あたし、どこに飛ぼうかな～？♪」
笑莉「いや・・・まだそうと決まったわけじゃ・・・まいっか♪」

こうしてお菓子に囲まれて話していると、いつの間にか時間は過ぎていった。

優華「んじゃまあ、今日はこのへんでおひらきにしますか？」
笑莉「あぁ、うん。あ！送ってくよ！！」
優華「いいよぉ。って言っても送ってくれるんでしょ？ありがと♪」
笑莉「はいよ♪　えっと、忘れ物は・・・ないね！よし！行こう！！」
優華「おじゃましましたー♪」

いつも笑莉の家から帰るときに通るこの林、夜に通ると怖いんだよ～とか、今更かよ！みたいな話をしながら、いつもの分かれるポイントについた。

笑莉「んじゃあまたね！！」
優華「また！ありがとね♪」

がしゃんっ！！

優華「あ～あ～・・・またケータイ傷だらけになっちゃうよ？」
笑莉「えっへへ・・・わかってるもん！　ありがと！」
優華「ったく～笑莉は～。おっちょこちょいちょいだもんな～。」
笑莉「はいはい分かりましたよーだ！！　んじゃあ今度こそ、またね♪」
優華「うん！バイバーイ！」

またあした、と別れを告げると、優華は方向を家の方にくるりと向けて歩こうとした・・・が、

何か丸いものをふんずけて頭から思いっきり転んだ。

ひじをついたあと、肩のあたりで骨ではない、パリッと何かが砕けた音とともに。

転んだ瞬間にギュッと閉じた目を開けると、そこには異空間が広がっていた・・・

「うわあぁぁぁ～～～！！なんじゃこりゃぁぁ～～～！！！」

明らかに自分は落ちて行く・・・

どこから？・・・・・わからない。

どこへ？？・・・・・わからない。

すると、視界がひらけて・・・ここは・・・空？と草原？

いつの間にか変わったらしい景色に、優華は必死に頭を回転させていた。

（この景色、見たことある！！）

そしてたどり着いた答えは・・・・・

「タイムリープ・・・？」

そういったとたん、後頭部に激痛が走った。

「い・・・いでぇ・・・・んっ？？」

目を開けると、漆黒の中に星・・・消えかかっている街灯・・・
そこはさっき自分が転んだ場所だった。

（今感じた感覚、景色は何だったんだろう・・・。見たことあるんだけど・・・あっ！）

優華の記憶の中では、さっきまで見ていた『時をかける少女』で、真琴が理科準備室で転んでチャージしてしまったときにみていた映像と一致していた。

（チャージ・・・ってことは・・・体のどこかにあの数字があるはず！！）

探してみるとやはり、ひだり腕のひじの下にイビツな数字の文字を見つけた。

このとき優華は、間違いなく自分はタイムリープができるということを確信した。

1．時をかける少女（後書き）

読んでくださってありがとうございます！！

どうでしたでしょうか…

意味不明な文章にならないように頑張りました～ッ☆

みなさんは「タイムリープしたい」と思ったことはないですか??

私はいっぱいありすぎて…すぐ使い終わっちゃいそう…。

では，次回もよろしくお願いします！

４／４　ＰＩＮＫＡ

2．かけだし。初回なり。（前書き）

今回、笑莉はでてきません！！ごめんね！笑莉！！

2．かけだし。初回なり。

（どーしよっかなぁ・・・）

優華は珍しく悩んでいた。その悩みの原因はもちろんタイムリープ。親友であり、共に時かけファンである笑莉に言おうか言わないか迷っていた。

映画の中で千昭は、「タイムリープを過去の人間に知られてはいけない」と言っていた。
しかし自分はまだタイムリープを使ったわけではないし、未来の人間でもない。
もし誰かに言ったところでどうなるというわけでもないと思うのだが・・・。

ケータイを開いて、電話帳の中から笑莉の名前を探す・・・手を止めた。

（タイムリープの記憶はアタシしか残んないし！！いっか♪）

果たして本当にそうだろうか・・・？

誰かに知られている気がするのは、彼女の心の扉の中を見ている私たちだけみたいですね。

次の日、学校の帰り道。
いつもは笑莉と帰る道を、今日は一人で歩いていた。
「今日は先生に呼ばれてっから、先帰ってて！」といわれたからだ。

なんとなく立ち止まって、いつもの歩道橋の真ん中で、下にある道路を忙しそうにあっちこっち行きかう車を眺めてみる。

しばらくすると、後方・遠くの方から　キキィーーー！！　とタイヤのこすれる音がした。
そしてパトカーのサイレンが聞こえてくる。
どうやら何かの事件の逃亡中の犯人を追ってるらしい。

こりゃあ大変だぁ。と軽く考えていたが、その直後、軽くでは済まされないことが起きた。

信号を無視して十字路を勢いよく曲がってきた逃走車は遠心力に勝てず、コンビニの前で何事かと目を丸くしている小学生たちがいる

歩道に突っ込んでゆく。

（ヤバイ！！挽かれる！！）

「逃げてーーー！　っあ！！」

とっさに小学生のもとに走り出した優華は、歩道橋の階段を踏み外して空中を飛んだ。

そのとき車のぶつかる音が聞こえ・・・・・・なかった。

自分も、いつまでたっても地面に落ちなかった。

無意識につぶった目を開けると歩道橋の中央あたりにいた。

さっきまでいた、走り出す前にいた場所。

「あれ・・・？　　！！　事故！事故は！？」

声を上げてあたりをキョロキョロ見回す優華を、行き交う人たちは怪しいものを見るような目で見ていた。

そして何事もなかったように歩いて行く。

（今ここに車が突っ込んできたんじゃないの？）

しばらく「うーん・・・」と考えたあと、考えすぎて分からなくなったので帰る方向に足を動かした。

歩道橋の階段を下りて左に曲がったとき、誰かにぶつかりそうになった。

優華「わぁっ!!」
（ったくぅ・・・ちゃんと前見て歩かなきゃ危ないじゃないか・・・）

男の子「あっ!ご、ごめんなさい!!」

優華「う・・・うん・・・・・・・?」
（あれ?この子達・・・さっき車に挽かれそうになってた子達だ!!無事だったんだぁ・・・）

そんなことを思っていると、遠くの方から　キキィーーー!!　とタイヤのこすれる音がした。
そしてパトカーのサイレンが聞こえてくる。

（ん?この音・・・さっきとまったく同じだ!!）

そう、あの事故が今から起ころうとしているのだ。

だから優華は、目を丸くして固まってる小学生たちの背中を押しながら安全な場所に走った。

その瞬間、十字路を勢いよく曲がってきた逃走車は遠心力に勝てずコンビニに突っ込んで停車した。
間もなくパトカーがやってきてその周りを囲む。
こうして車に乗っていた犯人は警察官に連行されていった。
幸いけが人も出ず、（犯人は軽い打撲らしいが）事件は解決したらしい。

女の子「お姉さん！ありがとう！！」

優華「あ、うん！どういたしまして！」

男の子「助かったぜ！んじゃ、行こーぜ！」

小学生たち「「「さよなら～！！」」」

優華「バイバーイ！気をつけてねー！！」

明るく、笑顔で手を振る。

『小学生の命を救った！！』とホクホクしたが、それもつかの間。

頭の中はナゾだらけ・・・。

自分は予言でもできるのかと思った。

しかしそれは当たらずとも遠からず。

ただ、タイムリープしただけのことだった。

優華「うわ・・・アタシ飛んだよ・・・タイムリープ・・・時空・・・飛んじゃったよ・・・！」

その声は、事故の野次馬にかき消されていった。

2．かけだし。初回なり。（後書き）

読んでくださってありがとうございます！！

第２話です～♪初めてのタイムリープ☆

今回は文章ばっかであんまりしゃべりはなかったんですね・・・

気付かなかった・・・相変わらずダメダメです・・・

でも気分を入れ替えて♪↑

実は帰り道に街中の歩道橋を通るって、私の憧れだったりします＾＾

私はチャリ通なので、歩道橋を通りません！

てかそもそも、歩道橋がない・・・Ｏｈ　ｎｏ・・・

では！次回もよろしくお願いします☆

４／７　ＰＩＮＫＡ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0447s/

心の時計の一部分

2011年10月8日17時10分発行